

2026年2月8日 ガラテヤ3：1－14

説教題 「祝福が異邦人に及ぶため」

【今日の説教から】

パウロに神様は人間の歩みのいかに誤りの多いかを示されました。ユダヤ人たちはこう信じていました。「わたしたちは生れながらのユダヤ人であって、異邦人なる罪人ではない」(ガラテヤ2:15)

それが神に選ばれた民、律法の民。神に選ばれ、神様の栄光を現わす民。しかし旧約聖書に描かれている通り、イスラエルは、ユダヤ人は神に選ばれた民ではありながら、世界の模範としての民ではありませんでした。「義人はいない、一人もいない」と書かれている通りです。

「人の義とされるのは律法の行いによるのではなく、ただキリスト・イエスを信じる信仰による」、これがイエス様が与えてくださった新しい契約です。古い契約を無効にされたのではなく、律法を守ることによって義とされるに人は本当に力ない存在であるが故の唯一の救済措置でした。

しかし人は律法を守ることによって義とされる道をあきらめず、自分は大丈夫だと高をくくっています。そして時の祭司長も律法学者たちもイエス様を十字架につけるという大罪を犯しました。

救いはユダヤ人のためのものではなくて、全世界の民のものであるということは当の昔にアブラハムに語られていたことなのに、それなのにユダヤ人たちは特権階級でいたがりました。彼らは異邦人を罪びと呼びわりましたが、自分たちもまたそうであることに目をつぶっていたのです。主の恵みに目を留めましょう。

序 アブラハム契約

創世記 12:1 時に主はアブラムに言われた、「あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。

12:2 わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。

12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、／あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべてのやからは、／あなたによって祝福される」。

(新改訳聖書) 12:1 【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。

12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。

12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上の

すべての民族は、あなたによって祝福される。」

序 異邦人の回心と聖霊の注ぎ

使徒 10:1 さて、カイザリヤにコルネリオという名の人があった。イタリヤ隊と呼ばれた部隊の百卒長で、

10:2 信心深く、家族一同と共に神を敬い、民に数々の施しをなし、絶えず神に祈をしていた。

10:3 ある日の午後三時ごろ、神の使が彼のところにきて、「コルネリオよ」と呼ぶのを、幻ではっきり見た。

10:4 彼は御使を見つめていたが、恐ろしくなって、「主よ、なんでございますか」と言った。すると御使が言った、「あなたの祈や施しは神のみ前にとどいて、おぼえられている。

10:5 ついては今、ヨツパに人をやって、ペテロと呼ばれるシモンという人を招きなさい。

10:6 この人は、海べに家をもつ皮なめしシモンという者の客となっている」。

10:7 このお告げをした御使が立ち去ったのち、コルネリオは、僕ふたりと、部下の中で信心深い兵卒ひとりと呼び、

10:8 いったいの事を説明して聞かせ、ヨツパへ送り出した。

10:9 翌日、この三人が旅をつづけて町の近くに来たころ、ペテロは祈をするため屋上にのぼった。時は昼の十二時ごろであった。

10:10 彼は空腹をおぼえて、何か食べたいと思った。そして、人々が食事の用意をしている間に、夢心地になった。

10:11 すると、天が開け、大きな布のような入れ物が、四すみをつるされて、地上に降りて来るのを見た。

10:12 その中には、地上の四つ足や這うもの、また空の鳥など、各種の生きものがはいっていた。

10:13 そして声が彼に聞えてきた、「ペテロよ。立って、それらをほふって食べなさい」。

10:14 ペテロは言った、「主よ、それはできません。わたしは今までに、清くないもの、汚れたものは、何一つ食べたことはありません」。

10:15 すると、声が二度目にかかってきた、「神がきよめたものを、清くないなど言ってはならない」。

10:16 こんなことが三度もあってから、その入れ物はすぐ天に引き上げられた。

10:17 ペテロが、いま見た幻はなんの事だろうかと、ひとり思案にくれていると、ちょうどその時、コルネリオから送られた人たちが、シモンの家を尋ね当てて、その門口に立っていた。

10:18 そして声をかけて、「ペテロと呼ばれるシモンというかたが、こちらにお泊まりではございませんか」と尋ねた。

10:19 ペテロはなおも幻について、思いめぐらしていると、御霊が言った、「ごらんささい、

三人の人たちが、あなたを尋ねてきている。

10:20 さあ、立って下に降り、ためらわないで、彼らと一緒に出かけるがよい。わたしが彼らをよこしたのである」。

10:21 そこでペテロは、その人たちのところに降りて行って言った、「わたしがお尋ねのペテロです。どんなご用でおいでになったのですか」。

10:22 彼らは答えた、「正しい人で、神を敬い、ユダヤの全国民に好感を持たれている百卒長コルネリオが、あなたを家に招いてお話を伺うようにとのお告げを、聖なる御使から受けましたので、参りました」。

10:23 そこで、ペテロは、彼らを迎えて泊ませた。翌日、ペテロは立って、彼らと連れだつて出発した。ヨッパの兄弟たち数人も一緒に行った。

10:24 その次の日に、一行はカイザリヤに着いた。コルネリオは親族や親しい友人たちを呼び集めて、待っていた。

10:25 ペテロがいよいよ到着すると、コルネリオは出迎えて、彼の足もとにひれ伏して拝した。

10:26 するとペテロは、彼を引き起して言った、「お立ちなさい。わたしも同じ人間です」。

10:27 それから共に話しながら、へやにはいって行くと、そこには、すでに大ぜいの人が集まっていた。

10:28 ペテロは彼らに言った、「あなたがたが知っているとおりに、ユダヤ人が他国の人と交際したり、出入りしたりすることは、禁じられています。ところが、神は、どんな人間をも清くないとか、汚れているとか言ってはならないと、わたしにお示しになりました。

10:29 お招きにあずかった時、少しもためらわずに参ったのは、そのためなのです。そこで伺いますが、どういうわけで、わたしを招いてくださったのですか」。

10:30 これに対してコルネリオが答えた、「四日前、ちょうどこの時刻に、わたしが自宅で午後三時の祈をしていますと、突然、輝いた衣を着た人が、前に立って申しました、

10:31 『コルネリオよ、あなたの祈は聞きいれられ、あなたの施しは神のみ前におぼえられている。

10:32 そこでヨッパに人を送ってペテロと呼ばれるシモンを招きなさい。その人は皮なめしシモンの海沿いの家に泊まっている』。

10:33 それで、早速あなたをお呼びしたのです。ようこそおいで下さいました。今わたしたちは、主があなたにお告げになったことを残らず伺おうとして、みな神のみ前にまかり出ているのです」。

10:34 そこでペテロは口を開いて言った、「神は人をかたよりみないかたで、

10:35 神を敬い義を行う者はどの国民でも受けいれて下さることが、ほんとうによくわかってきました。

10:36 あなたがたは、神がすべての者の主なるイエス・キリストによって平和の福音を宣べ伝えて、イスラエルの子らにお送り下さった御言をご存じでしょう。

10:37 それは、ヨハネがバプテスマを説いた後、ガリラヤから始まってユダヤ全土にひろまった福音を述べたものです。

10:38 神はナザレのイエスに聖霊と力とを注がれました。このイエスは、神が共におられるので、よい働きをしながら、また悪魔に押えつけられている人々をことごとくいやしながら、巡回されました。

10:39 わたしたちは、イエスがこうしてユダヤ人の地やエルサレムでなされたすべてのことの証人であります。人々はこのイエスを木にかけて殺したのです。

10:40 しかし神はイエスを三日目によみがえらせ、

10:41 全部の人々にではなかったが、わたしたち証人としてあらかじめ選ばれた者たちに現れるようにして下さいました。わたしたちは、イエスが死人の中から復活された後、共に飲食しました。

10:42 それから、イエスご自身が生者と死者との審判者として神に定められたかたであることを、人々に宣べ伝え、またあかしするようにと、神はわたしたちにお命じになったのです。

10:43 預言者たちもみな、イエスを信じる者はことごとく、その名によって罪のゆるしが受けられると、あかしをしています」。

10:44 ペテロがこれらの言葉をまだ語り終えないうちに、それを聞いていたみんなの人たちに、聖霊がくださった。

10:45 割礼を受けている信者で、ペテロについてきた人たちは、異邦人たちにも聖霊の賜物が注がれたのを見て、驚いた。

10:46 それは、彼らが異言を語って神をさんびしているのを聞いたからである。そこで、ペテロが言い出した、

10:47 「この人たちがわたしたちと同じように聖霊を受けたからには、彼らに水でバプテスマを授けるのを、だれがこぼみ得ようか」。

10:48 こう言って、ペテロはその人々に命じて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けさせた。それから、彼らはペテロに願って、なお数日のあいだ滞在してもらった。

皆様おはようございます。また週末寒波がやってきました。寒い明け方、雪の朝ですがお元気にお過ごしでいらっしゃいましたか。

ここら辺が寒さの底であると信じてもうひと踏ん張り頑張りたいと思います。どうぞご自愛くださり、お足元にはお気を付け下さい。

さてガラテヤ書も3章に入りました。先週は有名な次の箇所でした。

2:19 わたしは、神に生きるために、律法によって律法に死んだ。わたしはキリストと共に十字架につけられた。

2:20 生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。

死んでしまったものは起こることも誘惑に会うことも罪を犯すことも出来ないのですね、死んでしまったのですから。怒ったり、恨んだり、妬んだり、心配したり、絶望する旧来の生まれつきの私たちは、私たちがイエス様を信じて受け入れたあの時に、死亡診断書にその信じた時の時間が記してあるのです。だから私たちは道理からすれば罪の誘惑や弱さに打ちひしがれることは亡くなったのです。死んでしまった私たちの心の中にイエス様が生きてくださり、満たしてくださり、喜びと知恵で満たし、恵み深いお導きの中導き、生き、語らせてくださるのです。しかしそうはいつでも依然私たちは罪の残りかすをこの弱い肉体と精神の中に持ち合わせています。ですから聖書はこう言います。

「わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。」

それでも私たちは生きていきます。葛藤の中、「すでに」救われていると、「いまだ」苦しみと葛藤の中にある、そのような状態の中、私たちは、私たちの救いと贖いのためにご自身のいのちを捨ててくださったいつくしみ深い恵みの御子、主を見上げるのです。

3:1 ああ、物わがりのわるいガラテヤ人よ。十字架につけられたイエス・キリストが、あなたがたの目の前に描き出されたのに、いったい、だれがあなたがたを惑わしたのか。

3:2 わたしは、ただこの一つの事を、あなたがたに聞いてみたい。あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行ったからか、それとも、聞いて信じたからか。

3:3 あなたがたは、そんなに物わがりがわるいのか。御霊で始めたのに、今になって肉で仕上げるというのか。

3:4 あれほどの大きな経験をしたことは、むだであったのか。まさか、むだではあるまい。

3:5 すると、あなたがたに御霊を賜い、力あるわざをあなたがたの間でなされたのは、律法を行ったからか、それとも、聞いて信じたからか。

3:6 このように、アブラハムは「神を信じた。それによって、彼は義と認められた」のである。

3:7 だから、信仰による者こそアブラハムの子であることを、知るべきである。

3:8 聖書は、神が異邦人を信仰によって義とされることを、あらかじめ知って、アブラハムに、「あなたによって、すべての国民は祝福されるであろう」との良い知らせを、予告し

たのである。

パウロに神様は人間の歩みのいかに誤りの多いかを示されました。ユダヤ人たちはこう信じていました。「わたしたちは生れながらのユダヤ人であって、異邦人なる罪人ではない」(ガラテヤ 2:15)

それが神に選ばれた民、律法の民。神に選びだされ、神様の栄光を現わす民。しかし旧約聖書に描かれている通り、イスラエルは、ユダヤ人は神に選ばれた民ではありながら、世界の模範としての民ではありませんでした。「義人はいない、一人もいない」と書かれている通りです。

「人の義とされるのは律法の行いによるのではなく、ただキリスト・イエスを信じる信仰による」、これがイエス様が与えてくださった新しい契約です。古い契約を無効にされたのではなく、律法を守ることによって義とされるに人は本当に力ない存在であるが故の唯一の救済措置でした。

しかし人は律法を守ることによって義とされる道をあきらめず、自分は大丈夫だと高をくくっています。そして時の祭司長も律法学者たちもイエス様を十字架につけるという大罪を犯しました。

救いはユダヤ人のためのものではなくて、全世界の民のものであるということは当の昔にアブラハムに語られていたことなのに、それなのにユダヤ人たちは特権階級でいたがりました。彼らは異邦人を罪びと呼びわりました、自分たちもまたそうであることに目をつぶっていたのです。

パウロがなぜ律法による義を背けて主を信じる信仰に向かわせようとしたのか。それには二つの理由があります。一つにはユダヤ人たちが自分が律法の行いによって義とされるというおごりを断つため。そしてもう一つは律法を持たない異邦人の人たちに救いが及ぶためです。

律法を守ることによって正しいとされる人は誰一人としていない。ただ新しい契約としての御子の代価による。ただキリストの救いによって救われるのならば、異邦人たちが蚊帳の外に置かれているということはないはずです。

異邦人という言葉は、何回か出てきますが、これは非ユダヤ人、そして未信者という意味です。私たちに置き換えればクリスチャンでない人たちのことです。

私たちはユダヤ人たちのことをがちがちの特権階級で鼻持ちならない人たちだと思ってきましたが、クリスチャンとしての私たちも彼らと同じ轍を踏まないように気を付けたいと願うのです。

3:9 このように、信仰による者は、信仰の人アブラハムと共に、祝福を受けるのである。

3:10 いったい、律法の行いによる者は、皆のろいの下にある。「律法の書に書いてあるいっさいのことを守らず、これを行わない者は、皆のろわれる」と書いてあるからである。

3:11 そこで、律法によっては、神のみまえに義とされる者はひとりもないことが、明らかである。なぜなら、「信仰による義人は生きる」からである。

3:12 律法は信仰に基いているものではない。かえって、「律法を行う者は律法によって生きる」のである。

3:13 キリストは、わたしたちのためにのろいとなって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった。聖書に、「木にかけられる者は、すべてのろわれる」と書いてある。

3:14 それは、アブラハムの受けた祝福が、イエス・キリストにあって異邦人に及ぶためであり、約束された御霊を、わたしたちが信仰によって受けるためである。

「キリストは、わたしたちのためにのろいとなって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった」のです。

1 ペテロ 2:1 だから、あらゆる悪意、あらゆる偽り、偽善、そねみ、いっさいの悪口を捨てて、

2:2 今生れたばかりの乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。それによっておい育ち、救に入るようになるためである。

2:3 あなたがたは、主が恵み深いかたであることを、すでに味わい知ったはずである。

2:4 主は、人には捨てられたが、神にとっては選ばれた尊い生ける石である。

2:5 この主のみもとにきて、あなたがたも、それぞれ生ける石となって、霊の家に築き上げられ、聖なる祭司となって、イエス・キリストにより、神によるこぼれる霊のいけにえを、ささげなさい。

2:6 聖書にこう書いてある、／「見よ、わたしはシオンに、／選ばれた尊い石、隅のかしら石を置く。それにより頼む者は、／決して、失望に終ることがない」。

2:7 この石は、より頼んでいるあなたがたには尊いものであるが、不信仰な人々には「家造りらの捨てた石で、隅のかしら石となったもの」、

2:8 また「つまずきの石、妨げの岩」である。しかし、彼らがつまづくのは、御言に従わないからであって、彼らは、実は、そうなるように定められていたのである。

2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。

2:10 あなたがたは、以前は神の民でなかったが、いまは神の民であり、以前は、あわれみを受けたことのない者であったが、いまは、あわれみを受けた者となっている。

異邦人であり、またユダヤ人もまたさまよい出た者であり、統べて罪人である惨憺たる人類のため、私のため、神様の教えから通り離れていた私のため、主は大いなることをしてくださいました。私たちはその恵みに今週もお答えして生きていきたいと願います。

3:4 あれほどの大きな経験をしたことは、むだであったのか。まさか、むだではあるまい。

ガラテヤ

2:12 というのは、ヤコブのもとからある人々が来るまでは、彼は異邦人と食を共にしていたのに、彼らがきてからは、割礼の者どもを恐れ、しだいに身を引いて離れて行ったからである。

2:13 そして、ほかのユダヤ人たちも彼と共に偽善の行為をし、バルナバまでがそのような偽善に引きずり込まれた。

2:14 彼らが福音の真理に従ってまっすぐに歩いていないのを見て、わたしは衆人の前でケパに言った、「あなたは、ユダヤ人であるのに、自分自身はユダヤ人のように生活しないで、異邦人のように生活していながら、どうして異邦人にユダヤ人のようになることをしているのか」。

2:15 わたしたちは生れながらのユダヤ人であって、異邦人なる罪人ではないが、

2:16 人の義とされるのは律法の行いによるのではなく、ただキリスト・イエスを信じる信仰によることを認めて、わたしたちもキリスト・イエスを信じたのである。それは、律法の行いによるのではなく、キリストを信じる信仰によって義とされるためである。なぜなら、律法の行いによっては、だれひとり義とされることがないからである。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。人の思いの幼稚さと、徹底した神様のご愛の深さが計り知れずに対を成していることを思います。あなたの圧倒的な恵みに感謝いたします。あらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン